



理想の山間生活と現実の ミスマッチを解消する

— 世界農業遺産の村で、移住者の夢と
暮らしを守る新しい支援の形 —

宮崎県諸塚村 企画創生課



世界が認めた農林業の村、直面する「人口減少」の壁



世界農業遺産

「山間地農林業複合システム」認定

FSC®森林認証

日本初・村ぐるみで取得。
環境と経済を両立させた先進的モデル



存続の危機

深刻な人口減少と少子高齢化

急務のミッション

豊かな山を次世代へ繋ぐための
「関係人口」創出と「移住者」の受け入れ

問い 「山で暮らしたい」という思いを、どう形にするか？

移住希望者の「理想」

「自分の土地で、農業や林業をして暮らしたい」



諸塚村の「現実」

農地・一軒家の不足。安定優先で「一般企業就労」「村営住宅」を勧めざるを得ない。

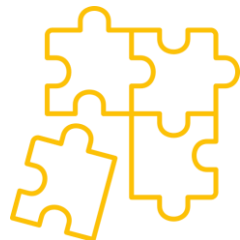


新しい移住者受入モデルの構築（FS生へのミッション）

このギャップを埋めるため、以下の「移住プラン」を共にデザインする



1. 小さく始める農林業
(自分の土地がなくても携われる仕組み)



2. 半農半X
(別の仕事と組み合わせる働き方)



3. 空き家や農地の効果的なマッチングモデル

4つのステップで、 新しい受入モデルをデザインする



STEP 1: 生活ヒアリング

移住者・Uターン者の
「暮らしの実態と本音」を深く探る。



STEP 2: コミュニティ理解

地区行事や共同作業
に飛び込み、地域の
構造を肌で感じる。



STEP 3: インフラ調査

空き家や農地の現状
を自らの目で確かめ
、
マッチングの可能性
を探る。



STEP 4: 支援案の策定

調査内容を統合し、
「農林業+α」で豊
かに暮らすための支
援施策を提案する。

活動のフィールドとスケジュール



滞在拠点「森の古民家」など



6-7月

事前学習と
ヒアリング
(オンライン)

8-9月:現地活動①

現地調査・行事参加で
村の暮らしを知る

10-12月

データ分析
課題の構造化

1-2月:現地活動②

追加調査・支援案の
ブラッシュアップ

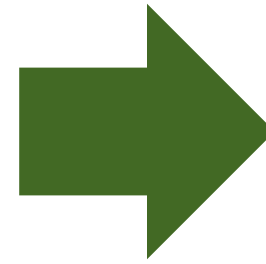
2-3月:最終報告

現地報告会
村役場・住民へ最終
プレゼン

専門知識よりも「真摯な問いかけ」が地域を変える



都会的・大規模な農業の発想



村の「小さな資源(シイタケ/お茶/畜産等)」
を組み合わせる豊かな暮らし

学生の
「素朴な疑問・
真摯な問い」



住民の
「自らの生活の再発
見
・新たな気づき」

諸塚村で、誰かの一生の暮らしを支える仕組みを一緒に作りましょう！